

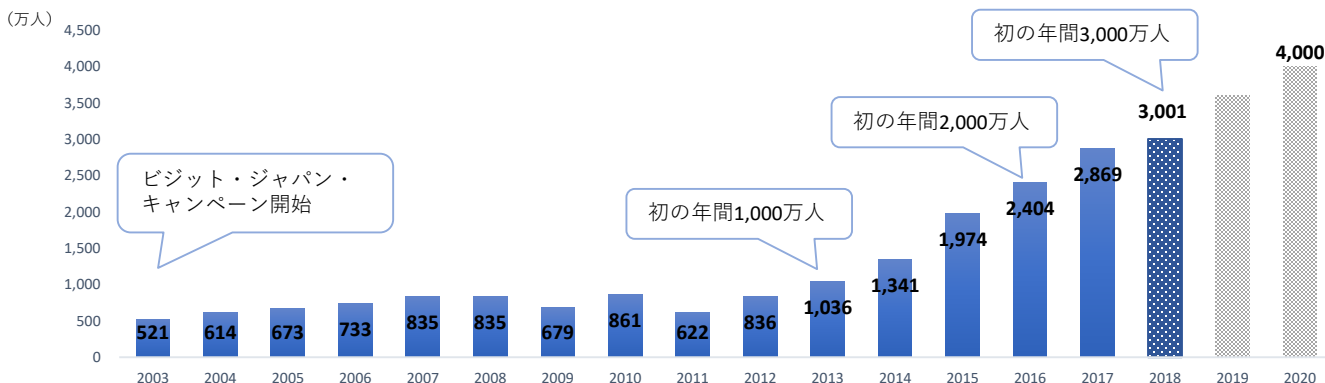
訪日インバウンドNews

訪日外国人旅行者数 初の3,000万人突破！！

日本政府観光局（JNTO）は、2018年の訪日外国人旅行者数が、12月18日までの累計（法務省の協力による独自調査）で3,001万人となり、**史上初めて3,000万人を突破**したことを発表しました。

ビジット・ジャパン・キャンペーン（日本政府が国土交通省を中心に、訪日外国人に日本の魅力をアピールする活動）が開始された2003年の訪日外客数は年間521万人。10年後の**2013年に年間1,000万人を突破**し、更には**2016年に2,000万人**、そして**2018年に3,000万人**と順調に推移しています。政府は、今後さらに各団体等と連携したプロモーションを強化し、**2020年4,000万人を目指**ています。また内閣府は、格安航空会社（LCC）の就航便数が、2018年以降毎年20%ずつ伸びた場合、訪日外国人旅行者数は、2020年に4,210万人になると試算（就航便数が年10%増にとどまる場合、3,770万人と目標に達しない見通し。）しており、**LCCの便数拡大や航空路線の新設等就航増が訪日客数の増加に必要**と分析しています。一方で、目標達成に向けて、LCC増加などに伴うパイロット不足、国内主要空港の受け入れ問題や労働力・宿泊施設の不足が懸念されています。

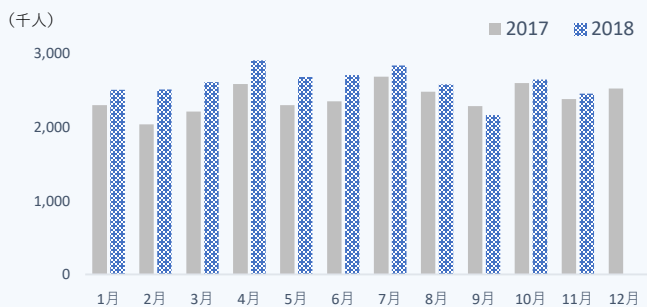
★2003 - 2020 訪日外客数推移 (2019-2020目標)



11月の訪日外国人旅行者数 (推計値) 245万1千人

2018年11月の訪日外客数は、昨年11月の2,378,079人を約7万人上回り、11月として過去最高を記録しました。市場別では、前月に引き続き、**韓国、台湾、香港が前年同月を下回りましたが、17市場**（中国、シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、インド、オーストラリア、アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、ロシア）で**11月として過去最高**となりました。特に高い伸びを示したのが**ベトナム（前年同月比36.7%増）**で、新規就航等による航空座席供給量の増加や秋の紅葉シーズンのツアー・チャーター便就航による影響と考えられます。また**イタリア（24.6%増）、スペイン（24.7%増）**も經由便の座席供給量の増加や旅行先としての日本の認知度向上が追い風となり、好調に推移しました。1月-10月累計で、**昨年**の年計を超えたベトナム、イタリア、スペイン、ロシアに加え、1月-11月で中国、タイ、フィリピン、インド、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツの8市場が**昨年**の年計を上回り、過去最高を更新しました。

★2017-2018 訪日外客数推移

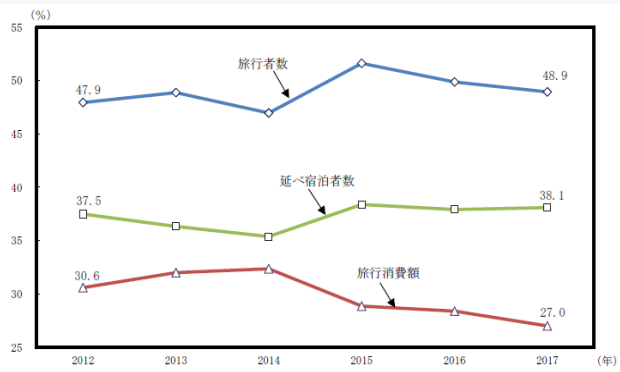


出典：日本政府観光局（JNTO）

インバウンド需要の地域的偏り

内閣府調べによる潜在成長圏（成熟圏（東京都、大阪府、北海道、京都府、沖縄県）を除く42県）が全体に占める割合を見てみると、**旅行者数は、約半分のシェア**となっているもの、**延べ宿泊者数は、40%以下**となっています。これは、**成熟圏に宿泊し、潜在成長圏に日帰りで訪れている方が多い**と考えられます。また**旅行消費額は、2017年で30%以下のシェア**となっており、2012年以降の変化をみると、やや低下傾向にあります。旅行者数・延べ宿泊者数のシェアが、ほぼ横ばいに推移しているのに対し、消費額はそれに呼応した伸びにはなっていないことがわかります。**土産物や買い物は、成熟圏で行う傾向**にあるようです。

★東京都、大阪府、北海道、京都府、沖縄県の5都道府県（成熟圏）を除く42県（潜在成長圏）の旅行者数、旅行消費額、延べ宿泊者数を全体に占める割合で示したグラフ



出典：内閣府「地域の経済2018」

インバウンドローカルガイド講座

11月4日、18日、25日とインバウンドローカルガイド講座を実施しました。
(募集定員の12名様にご参加いただきました。)

● 第1回目 座学講座

全国通訳案内士 芦田 久美子 氏、Tangonian代表 長瀬 啓二 氏に、ガイドの仕事とは、どんなことがお客様の感動に繋がるかなど、実際の経験を元にお話しいただきました。また受講生の皆さんには、英語での自己紹介、グループワークを経て観光スポットのガイドをシュミレーションしていただきました。

● 第2回目 座学講座 & フィールドワーク (出石城下町)

全国通訳案内士(英語・中国語資格取得) & 同時通訳者として活躍中の中山 慶 氏に、お客様に合った単語で自分も楽しみながらガイドすること、ガイドは翻訳家とは違い、瞬発力が大切であることなど、ガイドする上でのヒントをお話しいただきました。また出石スーパーガイドの加藤 勉 氏が案内される内容を見事に情報整理し、どのように外国人に伝えるかお手本ガイドを披露していただきました。

● 第3回目 フィールドワーク (出石城下町)

お手本ガイドで学んだことを生かし、受講生の方に実際にガイドをしていただきました。全講座に参加された10名様に修了証書を授与。



ガイド実践モニターツアーの実施

インバウンドローカルガイド受講者の新たな一歩！！

12月15日(土)-16日(日)に、京都外国語大学の留学生3名にご協力いただき、**モニターツアー(城崎&出石 1泊2日)**を実施しました。
インバウンドローカルガイド講座を受講いただいた皆さまに参加意向を聴き、11名様にご参加いただきました。



1日目は、講座での実習のなかった城崎温泉の現場で、日本語ローカルガイドの説明を聴き、今持っている英語力で伝えるという、少しハードルの高いものとなりました。2日目は、実習を重ねてきた出石。回数を重ねるごとに上達され、自由に自分の言葉でガイドされる余裕もありました。

モニターの留学生の方々からは、「英語はとても聞き取りやすく、フレンドリーで、日本に来てから一番思い出深い旅行になった。」、「もっと多くの方の前で話をすることに慣れたら、より自然に英語を話すことが出来るようになると思う。」といったフィードバックをいただきました。

また参加者からは、「ガイドをする度にいろいろ改善点も出てくる。ステップアップの講座があれば、ぜひ参加したい。」と感想をいただきました。

今後、新たなガイド希望者のご参加、既受講者のステップアップの機会を創出していきたいと思います。

外国人旅行者への定性調査

城崎周辺地域の魅力的なコンテンツの掘り起こし

豊岡市に宿泊する外国人観光客の平均宿泊日数は1.4泊(2017年度豊岡市来訪者アンケートより)です。京都市、高山市の平均宿泊日数は、いずれも2泊。比較すると豊岡市の宿泊日数は少ないことがわかります。

外国人観光客の約9割を占める城崎温泉から、他地域に周遊してもらうことで、豊岡市の宿泊日数が増えるのではないかと考え、城崎温泉に宿泊する外国人観光客に**出石・竹野を「認知」し、「興味」を持ってもらい、実際に「訪問」してもらうため、「見せ方」**について、定性調査(街頭インタビュー調査)を実施しました。

<出石>

- ・「行きたい」と思わせる要素：永楽館「Kabuki Theatre」(特にその内部全景が分かる写真)、家老屋敷「Samurai House」
- ・皿そば：他地域でも食べられ、小皿に乗っているユニークさが伝えづらい。また出石の街並み・風景は、他地域との差別化が難しいため、それだけでは訪問に繋がりにくい。
- ・アクセス：ボトルネック。説明をシンプルかつ分かりやすくする、ツアーやタクシー手配をセットで伝えると良い。

<竹野>

- ・「行きたい」と思わせる要素：青い海と白い砂浜(ピースフル)
- ・ジオカヌー：魅力的ではあるが他地域との差別化が困難。「きれいな海で様々なアクティビティができる。」というコンセプトにする。
- ・アクセス：容易さ、近さは有効。



2018年もTTIの活動にご協力いただき、ありがとうございました。
2019年もよろしく願いいたします。